

御製 五首

平成十四年

葉山御用邸

年まさる二人の孫がみどり児に寄りそひ見入る仕草愛らし

正倉院

千歳越えあまたなる品守り来し人らしのびて校倉あふぐ

庄内平野

月山も鳥海山もさやかなり空晴れわたる山形の旅

プラハにて

ウルタヴァの豊けき流れ見しタペプラハ城に聞くスメタナの曲

チエコご訪問の折、大統領主催の「文化の夕」で、同国出身のスメタナの作曲になる「モルダウ」が演奏された。「モルダウ」は、プラハ市の中心を流れ、陛下もご宿舎やカレル橋からご覧になったウルタヴァ河のドイツ語名。

生月大橋にて

めぐり来て橋に近づく漁船乗る海人の手を振るが見ゆ

長崎県行幸啓の折、平戸島と生月島を結ぶ生月大橋の下で、列を作り、大きな輪を描きながら奉迎する地元の漁船に、橋の上で、お車から降りられてお応えになった。

第五十三回全国植樹祭

山形県

「遊学の森」に集ひて植ゑし木々人ら親しむ森となれかし

第五十七回国民体育大会秋季大会

高知県

競技場に樂の音高くとよもして集團演技の人広がれり

第二十二回全国豊かな海づくり大会

長崎県

すこやかに育てられたるとびうをを放す佐世保の海静かなり

皇后陛下御歌 三首

平成十四年

八王子市に「元氣農場」を訪ふ

これの地に明日葉あしたばの苗育てつつ三宅の土を思ひてあらむ

三宅島の噴火から避難して都内に暮らす人々の営む八王子の農場を、三月におたずねになった時の御歌。島の産物である明日葉を植えながら、どんなに三宅の土を恋しく思っているだろう、との思いをお詠みになった。

芽ぐむ頃

カブールの数なき木々も芽吹きぬむをみなは青きブルカを上ぐる

学校の再開に備え、青いブルカを頭上まで上げて集まって来た女性教師たちのことを報道でご覧になり、木々の少ないカブールにも芽吹ききの時が来たことであろうと遠い地に思いを馳せられながらお詠みになった。

夏近く

かの町の野にもとめ見し夕すげの月の色して咲きぬたりしが

「かの町」はかつてよく夏を過ごされた軽井沢町。たずねていった野で夕すげの花は月の色をして咲いていたことだったが、と、往時を懐かしんでお詠みになった。